

ヒマラヤ紀行(・日本の桜のルーツをを尋ねて・)

先回のスイス旅行(6/24～7/5)の帰り機内のフライトレコーダーにヒマラヤ山群のアンナプルナ、エベレストの点描を見た。

又、何回かヒマラヤ上空を飛んだが、エベレスト(8848m)の山容を見ることは無かった・・・

スイス旅行では、ヨーロッパ・アルプスの主峰(モンブラン、ユングフラウ、メンヒ、アイガー、メンヒ、ピッツ・ベルニナ、マッターホルン、モンテローザ、等々)を展望台からではあるが、見せて貰った。

その後、クラブツーリズムより、

「**山岳リゾート、クラブヒマラヤに連泊、ネパールひとり旅6日間**」が舞い込んだ・・・

(飛行機の長旅はもう懲り懲りだ・・・)と思っていたのに・・・

この旅行は、カトマンズの古都観光、ナガルコットから朝夕ヒマラヤ山群を眺め、遊覧飛行ではエベレストを遠望する・・・との誘い文句があり、

又、個人的に、何かの本で、「日本の桜のルーツはヒマラヤで、この時期、カトマンズ郊外で**野生のヒマラヤ桜**を見ることが出来るかもしれない」・・・と思った・・・

ヒマラヤサクラとエベレストがこの目で確認できるかもしれない・・・と懲りずに又便乗したのである。

行程と概要 (添付:旅のしおりと:添乗員:芳仲優子さんの報告日記)

10/24 0900 関空発 クアランブール乗り継ぎ **カトマンズ着(2330)**

永い一日となった・・・(入管を終わり、ホテルに着いたのは翌日で殆ど休まず、待機した・・・)

10/25

0500 ホテルから空港へ遊覧飛行(0600～0800≒間約 45分遊覧)

天気に恵まれ、ヒマラヤ山群とエベレストを窓越しに遠望出来た。午後はロープウェイにて、チャンドラギリの展望台に登り昼食する。

私は、昼食を早めに切り上げ、公園と周りを探索

そこで、**野生のヒマラヤ桜(秋咲)**を**発見、感激**・・・

今日は、**エベレストとヒマラヤ桜**を見たのである・

(旅の目的の 90%は果たせた。)

10/26

・ **Katmandu** の古都-パタン,旧王宮、神の子(クマリ)の祝福を受ける

- ・バクタバル、ニヤタポラ寺院、(マツラ王朝)
- ・ナガルコット--**クラブヒマラヤ**着
- ・屋上～夕日を望むが天気悪し、

10/27

- ・ホテルの屋上～朝日を拝す、天気今一つ、
(ランタンリルン山群は霞んでいた。)
- ・チャングラヤン寺院(仏教)、ガルガデ村散策
この村の村道で**野生のヒマラヤ桜**を発見!!
- ・夕刻、ナガルコットタワーから夕陽を望んだが、天候悪し
不遜だが(トイレが無く)、傍の叢らにて、**立しょん**する(記憶に残る事件である??)

・ 10/28

- ・早朝、屋上～朝日を望むが、天気不良につき退散
- ・朝食後、チェックアウト、カトマンズ空港へ
- ・出国手続きを終え、クアランブールへ クアランブール着(20:05)

事件発生

乗り継ぎ機が来なく、クアランブールにて一泊する

・ 10/29

- ・ クアランブール発(11:00)----- 12 時間遅れて関空着 ---**16:30 分**

終わってみると

1. 「さくらと山・・・」の仕上げが出来た!!
 - ・日本のさくらのルーツをヒマラヤ桜に見た。
 - ・世界一のエベレスト山(8848m)を見た(窓越しではあるが)
2. ヒマラヤ山脈は広大な山群の集まりで、その規模は
東西 2000k、南北(幅)200k に及び、日本の本州がすっぽり入る大きさである。
エベレストはその一部の山群の一つの主峰に過ぎず、8000m 級の山々が乱立する中で、見分けが困難であった。
(その意味で富士山に比べて秀麗さに欠けた。)
3. K a t m a n d u の市街は埃と街並みは中国化され混沌としていた。
唯、世界遺産の寺院、王宮跡が観光地として保たれていた。
4. K a t m a n d u の郊外や、ナガルコット丘の山麓は棚田や稲作もされ、日本の信州の田舎の秋を思わせる長閑な光景が残っていた。
5. チヤンドラギリの展望台(2550m)の公園で**日本の山桜**を見た。

その時、ガイド(ラジ)さんから、ヒマラヤ桜について、ネパール国王(皇太子時代)から送られた種が日本の熱海市の熱海高校の農園でヒマラヤサクラとして育てている事を知った !!。

(折あれば、訪れてみたいと願っている。)

以上